

(4)各委員会の意見発表

① 第1委員会

「外国の人たちもくらしやすいまちづくり」



それでは、第1委員会の意見を発表します。

第1委員会のテーマは、「外国の人たちもくらしやすいまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、^{わたし}私たちは、8月18日に^{こくさい}国際センターの^{しせつ}施設見学を行いました。

そこで、^{わたし}私たちは、外国人をサポートすることが大切だと学びました。二つあります。一つは、ブラジル人のフェルナンダさんの話から、和がつかれない外国人に一人一人が向き合って話すことが大事だと聞きました。

二つ目は、^{こくさい}国際センターのような^{しせつ}施設が必要です。それを助けるボランティアも必要だということがわかりました。

その後、^{わたし}私たちは、^{しせつ}施設見学をしてわかったことや思ったことをもとに、名古屋を「外国の人たちもくらしやすいまち」にするためにはどうすればいいかを考えました。

それでは、私たちが考えたことを順に発表します。

○子ども議員

まず、私^{わたし}は、いろいろな国の人が集まれるイベントや施設^{しせつ}をもっとふやせば、日本^ふの人が外国の人と触れ合える機会がふえ、その国の文化を知ってもらえて体験ができると、人と人との和がふえるので、外国人がぶつかる三つの壁^{かべ}の心の壁^{かべ}が一つなくせると思いました。

移住^{いじゅう}してきた外国人は、仕事をしなければ生活ができません。でも仕事をするには言葉の壁^{かべ}をなくさなければいけません。なので、ボランティアの通訳^{つうやく}や日本人も語学を学び、外国人も日本語を勉強し、相手に寄り添^{よそ}う。そうすることで、より働きやすくなると思います。

○子ども議員

僕^{ぼく}は、日本語や日本の文化になじめない外国人が、学校や就職^{しゅうしょく}先で困^{こま}っている場合に、国際センター^{こくさい}が何ができるか、何かできるか考えてみました。

例えば小学生から中学生の場合は、学校と国際センター^{こくさい}が連携^{れんけい}をとり、お互い情報^{たが じょうほう}を交換^{こうかん}し、通訳^{つうやく}を送ったり国際センター^{こくさい}に来てもらったりすることができると思います。

外国人の子どもも自分の言いたいことが言えますし、何をすべきかわかると思います。働きに来ている人も同じで、通訳^{つうやく}やカウンセラーを通してお互い^{たが}の理解^{りかい}を深めれると思います。

○子ども議員

私は、外国の人が暮らすときにぶつかる三つの壁のことが印象に残りました。

一つ目の壁は、言葉・文化の壁です。日本語が話せない外国の人にとっては大変なことだと思いました。二つ目の壁は、制度の壁です。ルールがわからなければ不安になると思います。三つ目の壁は、心の壁です。日本人が外国人を怖いと思ってしまうと、外国人がさみしい思いをしてしまうと思います。

壁をなくすため、日本語や日本の文化の教室を開いたり、日本人が外国人との理解を深めればよいと思いました。

○子ども議員

私は今回国際センターに行って、名古屋には国際センター以外に、外国人に対応できる施設がもっとふえるといいと思いました。また、2020年にはオリンピックが開催されるので、名古屋にも外国人がふえ、外国人と会う機会が多くなると思うので、外国人向けの看板や施設などがふえると、もっと外国人が名古屋に来やすくなると思います。

○子ども議員

僕は、「外国の人たちもくらしやすいまち」にするためには、外国の人との和を大切にし、交流することが大切だと思います。

それは、国際センターでブラジル人の立川フェルナンドさんの話を聞いて、日本人との和ができない子は、とても苦しい思いをしたとおっしゃっていたので、そう思いました。

また、外国の人たちはなかなか和がつくりにくいので、その子と交流して和をつくるということを実行することで、「外国の人たちもくらしやすいまち」にできると思います。

○子ども議員

僕が一番印象に残ったのは、防災サロンの施設です。自然災害が起らない地域から突然やってきた人たちはすごく困ると思います。なぜかという、もし地震が起きた場合、どういう行動をとればいいのか、どこに避難すればいいのかわかりません。それで外国人向けの防災サロンはとてもよいと思いました。僕はもっと高台や駅の近くに防災サロンをつくると思います。そうしたら、輪がどんどん広がって、外国人と現地の人の触れ合いが多くなると思います。

○子ども議員

^{わたし}私は、名古屋^{こくさい}国際センターのボランティア活動について発表します。

^{わたし}私は、名古屋^{こくさい}国際センターでボランティアとして登録している人が延べ1000人もいるということを知りました。^{わたし}私は、このことを知って、延べ1000人の人が市内でも市外でもお互いに助け合おうと思って来ているのは、すごくいいと思いました。

そして、一番大切なことは、日本人と外国人との和が大切だと聞きました。そして、^{わたし}私たちにできることは、書き損じはがきを渡すことです。はがき11枚^{まい}で一人が1カ月学校に通うことができます。これも一つのボランティア活動なので、これから渡^{わた}していきたいと思います。

○子ども議員

^{わたし}私は、ブラジル人のフェルナンダさんのお話を聞きました。すると、フェルナンダさんやその友達^{ともだち}はみんな日本人との友達づくりに苦勞していました。なので、いつも日本人のグループと外国人のグループができてしまうそうです。このことに^{ぼく}僕は、一人一人が外国人に向き合って話してあげることが重要だと思います。

日本人がもっと外国のことを知り、外国人が困^{こま}っていたら力になれるような、「外国人の人たちもくらしやすいまち」にしていきたいです。

○子ども議員

^{わたし}私は、ブラジルから日本に来たフェルナンダさんの話から、周囲の日本人とのかかわりやサポートなどがないと、新しく友達ができなくなり、学校生活が不安になるということを知りました。

そのようなことを防^{ふせ}ぐために、国際^{こくさい}センターは8種の言葉でいろいろな疑問^{ぎもん}に応答^{おうとう}し、必要な事柄^{ことがら}を教えているとわかりました。

しかし、まだ外国人の生活の中には、日本人が目を向けられていない場面があります。そのため、日本に来た一人一人の気持ちをしっかりと受けとめるということが大切だと思いました。

○子ども議員

^{わたし}私は、読み書きができない大人の人が世界で約7億7400万人いるということを知って驚^{おどろ}きました。だから、私は日本で鉛筆^{えんぴつ}や消しゴムなどの筆記用具^{きふ}を買う寄附金^{きふ}を集めてボランティア活動をふやし、世界各地に勉強を教えられたらいいと思います。

そして、外国の人には言葉の壁^{かべ}というのもあります。だから、大人の日本語教室を開き、日本に来やすくすれば、外国の人は日本の言葉の壁^{かべ}をなくすことができます。そして、住みやすくなるのではないかと思います。

○子ども議員

私は、防災サロン、相談所などの施設は、「外国の人たちもくらしやすいまち」には欠かせないと思います。日本に対して外国人の人たちがぶつかる三つの壁があります。それは言葉や文化、制度、心の壁です。その壁を乗り越えるのは相談できるところがあるのが一番よいと思います。

コミュニケーションをとるのは同じ国籍でも難しいことなのに、もっと外国人の方には難しいことです。私は外国の方々の気持ちになって考えました。外国の方になったら希望も失い、母国に帰りたい、そんな気持ちになります。そのためにある施設は、とてもこの世界に重要だと、国際センターに行き、感じました。

○子ども議員

私は、国際センターを見学して、このような施設をもっともっとふやしたり、催し物をふやしたりして、外国人が地域の人や近所の人と触れ合える環境をもっとたくさんつくることが、名古屋を「外国の人たちもくらしやすいまち」になるのではないかと思います。

わたし

私たち第1委員会は、このようなことが名古屋を「外国人の人たちもくらしやすいまち」にするために必要だと考えました。

これで、第1委員会の発表を終わります。

なかぎとそ う む かんきょう

とう べん

■ 中里総務環境委員長の答弁

第1委員会の委員の皆さん、素晴らしい意見発表をしてくれまして、まことにありがとうございました。

第1委員会では、「外国の人たちもくらしやすいまちづくり」をテーマに、名古屋国際センターを見学をして、「外国の人たちもくらしやすいまち」にするためにはどうすればよいかを、この3日間、子ども委員長、子ども副委員長を中心に、12名の委員の皆さんに考えていただきました。

委員会の中で皆さんは、ブラジル人のフェルナンダさんの話を聞いて、外国の人は、言葉・文化の壁、制度の壁、心の壁という、この三つの壁にぶつかることを知り、一人一人がしっかりと向き合って話をすることが大切であると学んだと思います。

また、困っている外国の人をサポートするために、さまざまなボランティア制度があり、約1000人の人たちがボランティア活動をしているとの説明を受けて、皆さんからは、こういった制度をもっと知ってもらい、外国の人たちの困っていることを少しでも減らしていくことが必要であるとの提案をいただきました。

非常に難しいテーマでしたが、皆さんがしっかりと理解してくれたことに感心するとともに、また頼もしく思っております。

さらに、皆さん方からそれぞれの思いをいただきましたので、それらを私たち大人がしっかりと受けとめて、皆さんの住むこの名古屋市を、「外国の人たちもくらしやすいまち」にするために、私たちもさらなる努力をしていくことが肝要だと思っております。



それから、子ども委員の皆さん方に私から少しメッセージを送りたいと思います。

この3日間、皆さん方はこの議会で学校では学べないような、一人一人違うと思いますけれども、何かを学んだと思います。この何かということは、非常にこれからあなたたちが人生を生きていくのに大切なことであると思います。

せっかくこうやって議会の議員になって、この議会活動を体験したのでありますから、やはり将来はこの中の一人ぐらいは、この名古屋市会に立候補して、見事当選をして、もう一回大人になってこの壇上に上がっていただいて、市政発展のために尽くしていただきたいと思います。

そしてさらなる夢を持っていただいて、どこかの人が総理大臣を目指すと言っておる人もいますようでありますけれども、あなたたちは本当の意味で、総理大臣を目指すような人生の目標を持っていただきたいと思います。その目標に向かって全力投球で頑張っていく、こういうことが一番大切だと思っております。

最後になりますけれども、皆さんとこの3日間を本当に楽しく過ごせたことに感謝を申し上げるとともに、この第1委員会を担当させていただきました総務環境副委員長であります橋本ひろき副委員長、同じく、さはしあこ副委員長、そして担当していただいた後藤先生とともに、皆さん方に感謝を申し上げつつ、答弁とかえさせていたきたいと存じます。本当に皆さん方、お疲れさまでした。ありがとうございました。カムサハムニダ。

